

政策力で県政に挑む!

栗原 なおや

NAOYA KURIHARA

市と県を繋ぐ架け橋に!

県政躍動
Prefectural Government Dynamism

どうする
栗原

1. 災害に対処できる街づくり

四街道市での大規模な自然災害に対する最大の課題は電力問題です。災害時には医療機関や福祉施設への電源車の優先配備だけでなく、避難所や福祉施設などへの自家発電設備の充実が求められます。しかし市単独でこれら非常用電力設備を確保する事は難しく、県からの財政支援が必要です。さらには自動起動式信号機の更なる設置要望も重要です。

電源車の配備と自家発電を推進し災害に強い街づくりを進めます。



- ①災害初動対応の機能強化
- ②医療機関などへの電源車の優先配備
- ③自動起動式信号の増設要望

2. 高齢者や子育て世代が安心できる街づくり

高齢者福祉においては切れ目のない在宅医療と介護の連携体制を作り上げる事が求められます。その為には医療・介護・住まい・生活支援を包括的に保証する地域包括ケアシステムの構築が急務です。また少子化対策として妊娠初期からの手厚い支援態勢と共に、子供医療費や学校給食の無償化などの支援策の充実が求められます。

在宅医療と介護の連携を強化し地域包括ケアシステムの構築を急ぎます。



- ①地域包括ケアシステムの構築
- ②妊婦・子育て家庭への伴走型支援体制
- ③子供医療費や学校給食の無償化

栗原なおやさんは鈴木市長が県議時代から行動を共にされ、四街道市の発展のため尽くして来ました。

栗原さんは、誠実で政策通であるだけでなく、実際に課題解決に取り組める方です。千葉県とのパイプ役となり鈴木市政を支えるため、栗原さんが県政に必要です。より良い四街道のため栗原なおやさんをよろしくお願いたします。

千葉県9区 衆議院議員 奥野総一郎



3. 交通事故を未然に防ぐ街づくり

四街道市内では住宅街にある交差点で3年間に4件もの交通事故が発生するなど、小中学校近く的生活道路にある交差点での事故が続いています。こうした市街地での交通安全対策としてゾーン30の導入整備が進められていますが、いまだ指定されていないエリアが数多く残されています。区域を定めて車速を30キロに規制する指定や一方通行の導入などにより事故を3割も減らせる事から更なるゾーン30の導入が求められます。



どうする
栗原

市内道路の改善整備により市民を交通事故から守り安心して暮らせる街づくりを進めます。

- ①ゾーン30の整備加速化
- ②危険通学路の改善
- ③交差点改良と歩道整備

4. 市民から信頼される街づくり

次期清掃工場用地で確認されたフッ素や鉛などの土壤汚染は大規模かつ深刻なもので、5.4%の用地の約7割が汚染されました。清掃工場を建設する為の汚染残土の除去費用だけでも20億円が求められ、汚染土の全量撤去にはさらに数十億円もの費用負担が発生します。

その為にも県との十分な協議を進めると共に、清掃工場建設の方向性を含めた四街道市の立場を県に訴え続けていく事が求められます。



どうする
栗原

次期ごみ処理施設の費用削減を進め、市民に信頼される街づくりを進めます。

- ①土壤汚染の実態究明と環境保全
- ②残土埋め立て規制の厳格化
- ③ごみ処理施設建設への支援体制

5. 障がい者に寄り添う街づくり

市内には県立盲学校や点字図書館などの他、県視覚障がい者福祉協会など視覚障がいの方々を支援する拠点が数多くあります。障がい者が共に安心して暮らせる環境や理解の輪を広げていく事が住みやすい街づくりに向かいます。障がい者や家族の要望を的確に把握し、コロナ禍での社会的障壁を取り除く施策が求められます。



どうする
栗原

バリアフリーの推進等により障がい者に優しい安心して暮らせる街づくりを進めます。

- ①歩道のバリアフリー化
- ②交差点での音響式信号の増設
- ③JR四街道駅へのホームドア設置

栗原直也(くりはらなおや) プロフィール

昭和31年11月30日生

現住所／四街道市四街道1丁目

- 四街道市大日緑ヶ丘生まれ
- 千葉大学教育学部附属小学校卒
- 千葉大学教育学部附属中学校卒
- 市川学園高等学校卒
- 中央大学法学部法律学科卒
- 四街道市審議会委員(経歴)

市民参加推進評価委員会 / 総合計画審議会
都市計画審議会 / 保健福祉審議会 / その他

